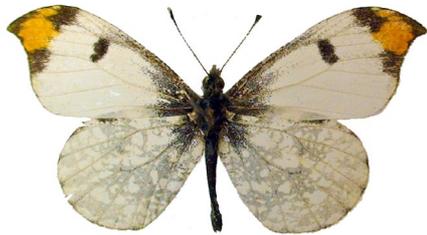


ツマキチョウは属名がギリシャ語の複合語 (*Antho+caris*) 「花を愛するもの」という意味の *Anthocaris* で、日本にはクモマツマキチョウという天然記念物指定の高山蝶との2種だけがみられる。近畿地域ではツマキチョウは



May 3, 1968 京都市修学院

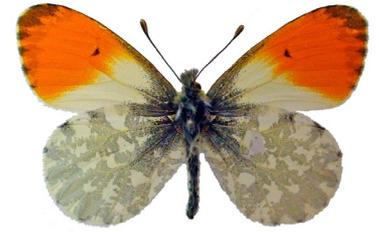
5-6月に蛹となりそのまま冬を越して早春3月頃にチョウとなって5月中には姿を消す、まさに春だけ活動するチョウである。寒冷地では発生が遅くて北海道で7月半ばにツマキチョウに出会うと季節感がおかしくなる。高砂市松波町周辺でまだみたことがないが、加古川市志方町の里山周辺では、モンシロチョウなどと一

緒に菜の花や、タンポポ、ノバラ、スミレなどの花のあるところで見ることができる。飛行時には翅表先端のきれいなオレンジ色の紋が目立たず、多くの人には小さめのモンシロチョウが飛んでいるな、としか認識していない。実は、その飛び方に特徴があって地面から一定の高さを保ちながら小刻みなはばたきでほぼまっすぐに飛ぶので、慣れてくると遠くからでも「ツマキチョウだ」と判別できる。例年、加古川市志方町で幼稚園、小学生の子供たち対象の「チョウ観察会」を開催しているが、ツマキチョウがみられる時期に伴っている親御さんに実物を間近にみせると「こんな愛らしいチョウが身近にいたなんて」と一様におどろかれる。

クモマツマキチョウの分布が本州中部地方に限られるのに比し、ツマキチョウは北海道から対馬、屋久島、種子島を含む九州まで広く分布する。幼虫はアブラナ科のタネツケバナ、イヌガラシ、ハタザオなどを好み、ナズナやハナダイコンも食べるといわれている。

非常に珍しい事例として、1967年に長野県諏訪郡富士見町で野外採集された幼虫からクモマツマキチョウとの種間雑種♂が羽化していて、安曇野市にいる蝶友がその検証目的で人工的に穂高産ツマキチョウ♂と八ヶ岳産クモマツマキチョウ♀とを雑交させ、ユキワリツマキチョウとよばれるきれいな♂の羽化に成功して自然界で雑交がありうることを証明している。通常、種間雑種は生命力が弱くてほとんど正常に羽化できなく、この検証は画期的な事例だといえる。

ツマキチョウ、クモマツマキチョウともに♀にはオレンジ紋がなく♂の方が数段美しく、雌雄の判別は容易である。このチョウの後翅裏には次ページに示した産卵中の♀のように複雑に入り組んだ緑のまだら模様があって、菜の花などの緑色の葉のあいだにじっと羽を閉じて止まっていると、すぐにはチョウがいるとは分からないみごとなカムフラージュ効果を発揮する。タテハチョウ類の羽裏の模様が樹肌に似て一種の保護色（隠蔽色ともいう）として機能しているのと同じ自然の妙だといえる。



Apr. 5, 1997 山梨釜無川産
クモマツマキチョウ♀



Aug. 25, 1981 長野穂高町飼育
by K. Maruyama

このチョウの後翅裏には次ページに



Anthocaris scolymus
ツマキチョウ

2015/04/16
11:51

Apr. 21, 2014 ツマキチョウ

一度ツマキチョウの飼育をしてみたくて、4月19日、ギフチョウ観察を終えたあと、近くの田園地帯を散策して母チョウをつかまえてきた。現地にあったタネツケバナを複数株根こそぎひきぬいて持ち帰り産卵を期待しているが、20日以降気温が低い状態が続いてまだ1個も産んではいない。



May 1, 2014 五月だ、チョウに会いに行こう

五月、雨も上がって陽射しが見えてくるや、蝶に会いたくてサイクリング。岩山の麓につく手前人家横の菜の花にアオスジアゲハがやってきており、その撮影中にツマキチョウの♀が産卵行動をとっているのに気づく。お尻をまげて明らかに産卵中。葉裏をみると複数の黄色い卵がみ

つかり、飼育してみたいのでいただいて帰る（卵は帰宅後に接写撮影）。以前、加古川市街のとある私有地の菜の花畑で盛んにツマキ



チョウの母蝶が産卵する光景をみたのだが、その後菜の花がすべて刈り倒され肥料として埋め込まれたのを目にしたばかりで、この菜の花だって卵からチョウになるまで無事そのまま残される保証はなく、持ち帰った卵は大事に育てる。

May 2, 2014 ツマキチョウの母蝶は強かった

ツマキチョウ母蝶はしっかりと子孫を残していた！ 4月19日に野外で捕獲してタネツケバナへの産卵を期待して飼育した母蝶が、4月30日に翅のどこも傷めることなく絶命して

いて、卵の確認もできなかったことから、未交尾個体だったとみなし、捕獲して持ち帰ったことを申し訳なく思ったのだが、残されたタネツケバナをよくよく観



察すると、なんと幼虫が3個体いる。小さい褐色幼虫は体長5mm。体長10-12mmの2個体はツマキチョウの幼虫だと分かる体側の白筋が目立つ緑色となっていてもう摂食し始めている。昨日いただいて帰った卵と合わせて蛹まで育て、それから来年の4月まで休眠蛹の管理初体験となる。

May 3, 2014 ツマキチョウが孵化

野外採取のツマキチョウ卵が孵化した。黄色い卵がみえないので孵化したとは分かったが、その幼虫の姿をみつけるのには時間がかかった。体長わずか2mm。拡大ルーペを使ってやっと見つける。ビデオカメラにクローズアップレンズを装着してもこの程度で、テレマクロ機能でも変わらない。



May 11, 2014 ツマキチョウが蛹化

最も早く成育した個体が蛹化した。脱皮してまもないタイミングで、蛹がどこか傷ついて体液がもれ出たのではないのかと心配になるほどに緑色に濡れているような状況を撮影記録。



Apr. 2, 2015 ツマキチョウ♀が羽化

羽化の瞬間を見過ごしてしまったが、羽化したばかりのツマキチョウの♀は、野外観察では白一色だと感じて全く気にしなかった前翅先端部にわずかに薄黄色の色調が見られて美しい。ツマキチョウを飼育したのは初めてで、越冬蛹は乾燥に強いと聞いていた通り、室内で湿度調整は何もしないで静置した状態から元気に羽化してきた。とても華奢な蛹だったのに、生まれたチョウが十分大きいのに驚かされる。



May 1, 2016 夢前町のツマキチョウ

ミヤマカラスアゲハの♀を求めて、宍粟市から夢前町へと転戦：2014年に黒系アゲハが競うように吸蜜飛来していたコウトクツツジは、2015年に小規模に切られたことと、午後の時間帯では日陰となるせいかチョウが来なく、山際の道沿いを蝶道とするカラスアゲハがたまにみられるだけ。それでも、もうシーズンが終わったと思っていたツマキチョウが飛んでおり、その飛翔についていくと、うれしいことにヘビイチゴの花で蜜を吸い始める。久しぶりにツマキチョウの撮影ができたのはラッキーだった。



Apr. 21, 2021 夢前町

一番奥の離れた場所のシバザクラまで歩く途上、溪流がある草地に現れたのは、その小刻みな飛び方からツマキチョウだとわかる。谷川の流れに沿った飛翔についていくと、開けた部分まで飛んで行ってから引き返し、路傍にあるナワシロイチゴの白花で吸蜜する場面が展開。

